

にすぎないかもしれぬ、そしてそれらは、それらが處理しようと思つてゐる諸問題についての直接的な智識なき人々の中では、無關係な諸目的のために奔走せる多數のために、敗られるかも知れないのである。更に、もし國民投票が苟くも作用すべきものとするならば、それは唯第一流の方策に關係してのみ、またもし公共の便宜を顧慮すべきだとするならば、極めて稀な仕事に關してのみであらう。上下兩院間の克服し難い争論に關する一切の通常の場合には、現下の政府は新議會まで方策を延期することを受諾するであらう。然し焦眉の急を要する方策、根本的に重要な方策、就中、通常の政黨の限界線を越え、而もその結果英國の制度が處理する能力なき方策が存在する、そしてこれらに關しては直接人民に意見を求めることが最も適當な解決方法であらう。

然らばわれ／＼に必要なものは明白に下院に從屬する公平な第二院即ち、財政に容喙するを得ず、從つて内閣を顛覆させ得ず、却つてある方策を人民の直接投票に附託するか或ひは第二次選舉の評決に附託するかの孰れか——時の政府が兩者の孰れかを選択する自由を持つてゐる——を保證し得る第二院である。かかる第二院は直接的人民選舉により設立されても差支へないであらう。けれども選舉の増加は民主政治が作用するためにはよいことではない、そして直接に選舉された議會をば從屬的地位に從はせることは困難であらう。それ故之に代る方策として、それは下

院自體により比例制度に基づいて選出され、その成員は兩院に議席を有するといふやうにしても差支へないであらう。變動を切抜けるには、現時の議會のため第二院の半數は現在の上院によつて選出され、その代議員達は今議會の終には引退して次の下院並びに將來の下院が第二院の半數を選ぶに任せる、といふやうにしても差支へないであらう。然らばこの第二院は平等の割合で現在並びにその前の下院を反映し、且つ政黨間の均衡も公正に保たれるであらう。この第二院は合理的な修正を保證する充分な権限を有し、また自己の見解を押しつけるのを控へるべき充分な理由を持つてゐる。もし公衆がその方策を支持してゐるならば、結局に於いて下院は、國民投票によるにせよ總選舉での確信ある更新された投票によるにせよ、之を苦勞して通過させ得ることが判るであらう。下院側では、調和的氣質を發揮すべき理由があるだらう。下院は延期したり訴求したりすることを強ひられたくはないであらう。下院が選ばうとする方法については下院は絶對的な自由裁量権を持つであらう、そしてもし下院が未決になつてゐる一聯の國民的方策を以て國民に訴へ、その是認報告を待つとするならば、下院は正しく強い地位にあると感じることであらう。

形態については以上で終ることとする。けれども民主政治の現實の未來はもつと深奥な問題に



かゝつてゐるのだ。それは文明の一般的進歩と運命を共にする。社會の有機的性質とはある意味に於いては一の理想である、といふことは既述した。他の意味に於いてはそれは一の現實である。即ち、重要な如何なることでも、一面に於いて、全組織を通じて反動を起さずには社會生活に影響を及ぼしはしないのである。この故に、例へば、偉大な政治的進歩は、之に對應する何等かの進歩が他面に無くては、維持される筈がないのである。人民は、自己の生活や心情を奪ひ去るやうな諸條件に産業上で服してゐるならば、その政治的な能力に於いて充分に自由ではない、全體としての一國が他國を恐れたり或ひは他國に恐怖の種子を與へてゐる限りは、完全な意味に於いて自由ではあり得ない。社會問題は全體として觀察されねばならない。此處でわれ／＼は近代の改革運動の最大の弱點に觸れるのだ。専門精神が政治・經濟的活動を侵し、人々はいよ／＼全精力を特殊問題に捧げ他の一切の事情を冷笑的に無視せんばかりとなつた。現今の世界の進歩に必要なのは「かゝる援助でもなければ、これらの擁護者でもない。」むしろわれ／＼はコブデン學派から至上の教訓を學びたい。彼等にとつては政治問題は種々に分岐してはゐるが本質に於いて分れてゐない一つの問題だつた。それは自由を實現するといふ問題だつた。彼等の自由概念が皮相過ぎること並びに、その具體的内容を認識しようとすればそれが相互的拘束を基礎とする

ことを理解し且つ之を相互扶助の基礎として尊重せねばならぬと考へられる理由は既述した。それ故われ／＼にとつては調和が統一的概念として一層よく役に立つのである。初期の急進主義者を鼓舞し、コブデンの統計に活氣を與へ、ブライトの雄辯に威壓力を藉したのと同一の論理的力を以て、同一の實際的策略を以て、同一の推進力を以て之を遂行することがわれ／＼に残されてゐる。われ／＼は派閥精神ある狂信者よりも、統一的精神ある人々をもつと必要とするのだ。英國の改革論者達は、即時的成功の廣告的な價值よりもむしろ、深奥な、但し目につくことは少い慣例や感情の變化の方を一層に頼みにすることを學ぶべきであり、また投票を獲得するよりも一層に輿論を納得させることを考ふべきである。われ／＼は眞に民主的な感情を持つてゐる人々のより、完全な協同と改革の順序についての一層の合意とを必要とする。現在では進歩は第一に前進しつゝある多くの問題の競争自體のために阻止されてゐる。此處でも又委員附託といふことがわれ／＼を助けるであらう、然し尙一層助けになることは、自ら民主主義者だと公言し自稱する人々の間で、彼等自身が言つてゐることの意味の幅と深みに關するより、完全な認識を基礎として協同が行はれることの必要を一層明確に意識することであらう。この忠言は猛烈な精神を有する人々には冷かに思へようが、然し彼等は、正義といふヴィジョンは、劇的な火花のやうな瞬間



にパッと燃える情熱ではなくて、却つて中心の熱い永續的な光をたゞへて燃える情熱をば、完全に美しく燃え立たせるものだ、といふことを知るやうになるであらう。

## あとがき

本書はホブハウスの「自由主義」(Leonard Trelawney Hobhouse: Liberalism, 1911.)の第五版(一九二九年)全譯である。

原著者ホブハウスは、英國の社會學者、哲學者として聲名高かつた人である。一八八六年オックスフォード大學を卒業後、マートン・カレッジ及びコーパス・クリステイ・カレッジで教鞭をとつてゐたが、一八九七年に教壇を去つて自由黨の機關紙マンチェスター・ガーディアン論説記者となつた。一九〇二年に退職、その後は労働組合運動に従事したり、ロンドンのトリビューン紙記者となつたりしたが、一九〇七年にロンドン大學に迎へられて社會學教授となり、一九二九年死亡するまでその地位にあつて研究に専念した。

本書は彼の主要著書の一であり、その量に於いてこそ必ずしも膨大なものではないが、自由主義の本質、その發達の沿革、將來への展望などを、英國を中心として極めて簡潔に、而も力強い筆致で説明せる名著として、數版を重ね、今日では自由主義につき論じようとする者が必ず一瞥



すべき古典的地位を占める著作である。

今や我國は、無謀な太平洋戦争に完敗した直後の虚脱状態を漸くにして脱し、日増しにつのる深刻な食糧不安、悪性インフレの重壓下に苦しみながらも、全國民を擧げて眞の意味の文化國家平和國家建設のために血のにちむやうな努力を傾けようとして居り、巷には民主化を叫び自由を要求し之を謳歌する聲が満ち／＼してゐる。然し自由を放縱と同視し、民主化を無拘束と看做すやうな人々が存在するのではなからうか？ 自由とは決して放縱と同義でなく、それは責任を伴ひ拘束を基礎とするものである。また自由は本來凡ゆる不正、不義、壓迫に反抗して戦ひ取るべきものであり、與へらるべきものではない。われ／＼はアメリカによつて自由を與へられた。この自由を眞實の自由とし、我國をして眞に自由主義の榮える國家たらしめるのは、今後に於けるわれ／＼に課せられた責務である。私が本書を譯出したのも、之によつて自由主義の本義を明かならしめ、我國民が似而非自由主義に毒されるのを防ぎ得る、と考へるからである。

一九四六年三月

譯者



昭和二十一年四月二十五日 印刷  
昭和二十一年四月三十日 發行

自由主義 賣價 拾五圓

譯者 清水金二郎  
京都市左京區北白川上終町八〇

發行者 田畑弘  
京都市左京區吉田泉殿町一ノ一

印刷所 内外印刷株式會社 代表者  
京都市下京區西洞院通七條南入

製本所 松尾製本所  
京都市上京區樺木町通千本東入

發行所 三一書房  
京都市左京區吉田泉殿町一ノ一



## — 世界文化叢書刊行の辭 —

わが國の專制的絶對主義權力は自己の特權的地位擁護のためにあらゆる虚偽と偽裝をこらしつゝ、封建的隷従を神聖なる掟とし不相應に強大なる軍備と狂暴なる中世紀的警察力を武器として、言論、出版、集會、宗教等の基本的人權を蹂躪し來つたのであるが、歴史に反逆するものはやがて没落する運命にある。第二次世界大戰がわが國をも含めてフアッシュヨ陣營の完全なる敗北に終つたことは洵に意義深い。今や自由への曉鐘が打ち鳴らされ、暗黒の文化的鎖國時代は明け放たれようとしてゐる。とは云へ過去八十年間の長きに亘つて築かれた反動的封建的支配者共の勢力には猶隠然たるものがあり、一應の後退を装ひつゝも回天の日の來らんことを虎視眈々狙ひつゝある。我々は斷固たる決意を以て人民の敵を追放し掃ぎなき眞の平和を開ひとらねばならぬ。これこそ今日、日本人民に課せられた光榮ある世界史的使命に外ならぬ。これが達成のためにはあらゆる獨善を排し、掟はれざる眼を以つて世界史の動向に活目し、その客觀的、科學的把握と、それに基づく實踐あるのみである。これ弊社が世界文化叢書を刊行せんとする所以であり、先進民主主義諸國の勝れた文化を紹介すると共にわが國に於ける進歩的知識人の勞作をも併せ上梓し、以て世界文化の進展、人類の幸運に寄與せんとする微衷に外ならぬ。讀書子諸彦の絶大なる支援と鞭撻を期待する次第である。

一九四六年三月

三一書房企畫部



991  
170



終

